

平成28年度 高松市事務事業評価表 (事中・事後評価)

事務事業名	古代山城屋嶋城跡城門遺構整備事業		
部 局 名	創造都市推進局	課(室)名	文化財課
電話番号	087-839-2660		

【事業全体概要】まちづくりの目標：心豊かな人と文化を育むまち

総合計画	政策	地域に根ざした文化芸術の創造と振興		主体	市
	施策	文化財の保存と活用		期間	平成20年度～平成27年度
	基本事業	文化財の保存と活用		総事業費	470,357
重点取組項目	重点取組課題2		特定財源	国	202,986
関連根拠法令等	文化財保護法			県	4,130
事業区分	自治事務	種別	事中・事後	市債	0
事業種類	補助			他	0
				一般	263,241

事業の概要
 屋嶋城は、「日本書紀」天智天皇6年(667年)に築城の記述が見られ、そのうち存在が確認されている古代山城は全国でも5城しかないので、極めて貴重な遺跡である。しかも、これまでに発見されている全国20数例の城門遺構の中でも、最大級の規模を誇り、構造面においても類例の少ない遺構として注目度が高い。この屋嶋城跡の城門遺構の保存整備の実施にあたり「屋嶋城跡城門整備基本構想」を策定し、その石垣の解体復元を行うものである。復元後には、屋嶋山上における観光資源の一つとして活用を図るものとする。合わせて、平成21年度には備讃瀬戸古代山城シンポジウム、22年度には古代山城日韓シンポジウム、24年度に古代山城プレサミット、25年度には第4回古代山城サミット高松大会を開催した。平成28年3月に一般公開を開始した。

【事業の目的と指標】

対象	史跡天然記念物屋島に所在する屋嶋城跡の城門遺構	対象指標名	屋嶋城跡城門の面積
		活動指標名	修理を実施した屋嶋城跡城門石垣等の立面積
手段	石垣の解体・復元 説明板等の設置	成果指標名	屋嶋城跡城門石垣等の修理進捗率 屋嶋城跡城門石垣の年間見学者数
		効率指標名	事業費100万円当たりの屋嶋城跡整備現場の見学者数
意図	崩壊している石垣等を修理する。		
結果	貴重な文化財の保護が図られるとともに、市民への公開が可能となる。		

【指標値および事業費の推移】

指標名	単位	平成25年度	平成26年度	平成27年度	目標値	目標年度
対象指標	m ²	2,500	2,246	2,500	2,995	平成27年度
活動指標	m ²	219.5	311.5	334.5	312.5	
成果指標	%	70	76	100	100	
	人	1,522	2,246	3,010		
効率指標	人	49	68	14	49	
トータルコスト	[千円]	30,884	32,896	214,787		
(事業費)	[千円]	23,644	25,515	207,110		
(職員人件費)	[千円]	7,240	7,381	7,677		

【環境変化等】

開始時周辺環境(背景)	現状周辺環境	今後周辺環境(予測)	住民意向分析
屋嶋城跡城門遺構の石垣等が、1,300年余りの長い年月によって崩落が進んでいた。また、急斜面に立地するため、市民が見学するには危険な状態である。	石垣等の崩落が急速に進行する状態にあり、保存整備工事の実施が急務となっている。なお、実施にあたっては文化庁などの指導、屋嶋城跡調査整備会議の意見を得て慎重に進める必要がある。	石垣等を復元でき、市民の見学が可能になる。徐々にではあるが、市民の間で認知度が高くなっており、さらに、全国的に知られていくことが期待できる。	事業開始前後に開催した現地説明会において、市民から城門遺構の早期の整備・公開を望む声が多く聞かれた。また、観光面からみて、本市の魅力アップを図るための歴史的文化的資源としての期待が大きい。

【妥当性評価】

1. 事業の実施主体として市の関与は妥当か
A 法令等により市が実施しなければならない 史跡天然記念物屋島は、本市が管理団体に指定されており、さらに史跡の構成要素の一つである屋島城跡の保存管理については責任ある立場である。その貴重な石垣が崩落の危機に瀕していることから、市の積極的な対応が必要である。
2. 事業の上位目標である施策に貢献しているか
A 貢献度が大きい 全国的にみても評価が高い城門遺構を保存するだけでなく、将来にわたって一般公開を図っていくものであり、さらに教育や観光資源として魅力ある屋島を創出するなど、施策に貢献するものである。
3. 成果を上げるため、またコストを削減するため、対象あるいは意図（目指す状態）を拡充・縮小する必要があるか
B 必要性は中程度 計画どおり、平成27年度末に一般公開を行うことができ、多くの見学者が訪れている。今後は屋嶋城の総合的な評価を高めるためにも、城門の周知活動と、城門以外の防衛線や屋島山上の関連施設の調査を継続する必要もある。
4. 事業を廃止・休止した場合に影響があるか
A 影響は大きい 事業の廃止・休止となった場合、城門遺構の石垣の崩落が進むと、観光的にも教育的にも高松市にとって貴重な遺産を残すことができなくなる可能性が高いばかりではなく、史跡天然記念物屋島の管理団体としての行政の責任能力を問われることになる。計画どおり完了でき、管理団体としての責務を果たすことができた。
5. 市民協働の実施状況はどうか（どのような市民参画・市民活動との連携等を実施したか）
B 事業にNPO、市民団体等が参画している 屋島小学校や屋島観光ボランティアガイド等とともに、屋嶋城の案内、観光PR活動とも連携・協力している。

【有効性評価】

6. 事業の成果（成果指標値）を向上させる余地はあるか
B 向上余地が考えられる（中小程度） 今後は、地元市民グループや観光ボランティアの協力のもと、より積極的に案内及び周知活動を行っていく必要がある。
7. 事業執行上の見直しを行ったか（昨年度何か業務の見直しを行ったか）
A 実施済み/実施する必要がなかった 文化庁、屋嶋城跡調査整備会議の指導を得て、遺構の保全を最優先し、遺構の修復形状などについて検討を行った。
8. 成果目標値に対する実績値（達成度）はどうだったか
B 目標どおり達成できた 古代山城の石垣解体復元工事は類例が少なく、本事業を実施することにより、貴重な先例となる。

【効率性評価】

9. 成果を達成するための活動量（活動目標値に対する実績値）はどうだったか
B 目標どおり達成できた 平成27年度末に予定通り、完成し、一般公開することができた。
10. コスト縮減ができたか
B 縮減できた 早期に発注し、工事費を予算額より大幅に削減することができた。

【一次評価】

評価区分	継続																						
計画どおり、平成27年度末に一般公開することができたが、調査業務の実施に日時を要したことから、整備報告書の刊行を28年度に繰越した。																							
改革案																							
内容	<p>平成28年度の早期に報告書を作成し、事業を完了する予定である。</p> <p style="text-align: right;">阻害要因</p> <p>調査において新たな遺構が見つかるなど検討すべき課題が生じた。</p>																						
期待効果																							
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3" style="text-align: center;">コスト</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">削減</td> <td style="text-align: center;">維持</td> <td style="text-align: center;">増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">成果</td> <td style="text-align: center;">向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持					低下			
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持																						
	低下																						

【二次評価】

評価区分	継続
残務である報告書を作成し、速やかに事業を完成させる。	